



一般社団法人 都市計画コンサルタント協会

## 協会レビュー 2017年第5号

トピック・コラム

会場は満員御礼、大盛況でした！

### シンポジウム「これからの都市計画の話をしよう」

6月30日金曜日に、四ッ谷のスクワール麴町において、協会が主催するシンポジウム「これからの都市計画の話をしよう」が開催されました。

当日は、東工大中井先生の基調講演に始まり、国交省宇野都市計画課長による情報提供が行われた後、筑波大谷口先生、永山前熊本市都市建設局長、当協会松原会長を加えたパネルディスカッションが行われました。

編集部からも2名が参加し、コンサルタントとして、これからの都市計画にどう向き合うのがよいか、大変刺激を受けてまいりました。以下には、編集部が特に印象に残った話題についてご紹介します。(編集部 津端・楠亀)



#### 1. これからの都市計画は、「計画・整備」に加え「マネジメント」が重要！

中井先生からは基調講演で、都市計画基本問題小委員会による中間とりまとめ「都市のスポンジ化※への対応」での議論の状況を織り交ぜながら、これからの都市計画が関わる範囲についてお話になったことが印象に残りました。

これまでの都市計画が担った領域は主に「計画」と「整備」までで、整備された後のまちには関与してこなかった。これからは人口や市街地需要の減少に一層直面する中、「計画」「整備」に加え、「時間概念」や「機能を維持するためのマネジメント」などの導入を通じて、市街地の空洞化が生じないように、あるいは現在よりも大きくならないように、まちを適切に運営管理していく必要がある。といった説明でした。

人口や経済活動が右肩上がり成長している時代は、施設を整備すれば利用されることを前提に捉えていましたが、今後は空き地や空き家といった「利用されない場所」への対策や、整備された施設を有効に活用・管理する観点が、一層求められそうです。

※都市の内部において、空き地、空き家等の低未利用の空間が、小さな敷地単位で、時間的・空間的にランダムに、相当程度の分量で発生する現象(都市計画基本問題小委員会中間とりまとめから抜粋)



## 2. コンサルタントに期待する「能力」と「役割」

—国交省から—

宇野課長からは、質の高い都市計画行政の推進に関する情報提供の中で、コンサルタントに期待する能力として、「知識」「技術力」「創造力」をあげられました。これらはいずれも、我々コンサルタントが業務を遂行する上で、欠くことができない能力です。

宇野課長からはまた、コンサルタントに、都市を分析する基礎力をつけたうえで担ってほしい3つの役割についても説明がありました。皆様は以下のどの役割を担っていますか？また、今後はどの役割を目指していきますか？

「ホームドクター」まちの課題や対応方針を客観的に示す役割

「コーディネーター」地域の合意形成や他分野との連携などを進める役割

「アドバイザー」都市全体を俯瞰する視点と専門的知見を生かして政策や戦略を提案する役割

—学識経験者から—

谷口先生からはパネルディスカッションで、コンサルタントの役割を考える上で、の情報提供がありました。

コンパクトシティや立地適正化計画に関する自治体へのアンケートを平成19年度と26年度に行った結果、都市をコンパクト化する必要性はわかるが、可能性は難しいと感じる回答の傾向は、どちらのアンケートも変わらなかった。一方で、可能性が難しいと感じる理由には、「担当者が数年で異動してしまう」「コンパクト化の効果を説明することが難しい」といった意見が平成26年度は19年度よりかなり増えていた。コンサルタントの役割はここにヒントがあるのでは。といった指摘でした。

**シンポジウム**  
**これからの都市計画の話をしよう**

**プログラム**  
 平成29年6月30日(金) / スクワール麹町錦華の間

開会挨拶 13時30分 (一社)都市計画コンサルタント協会  
 会長 松原 悟朗

基調講演 13時35分～ これからの都市計画  
 14時35分 東京工業大学大学院教授 中井 検裕氏

情報提供 14時35分～ 都市計画関連ビジネスの新たな展開  
 15時05分 国土交通省都市局都市計画課長 宇野 善昌氏

休憩 15時05分～15時15分

パネルディスカッション これからの都市計画の進め方はどうあるべきか？  
 15時15分～ コーディネーター 東京工業大学教授  
 17時15分 中井 検裕氏

パネラー 筑波大学教授 谷口 守氏  
 国土交通省都市局都市計画課長  
 宇野 善昌氏  
 前熊本市都市建設局長 永山 國博氏  
 (一社)都市計画コンサルタント協会会長  
 松原 悟朗



—発注者から—

発注者を代表してパネルディスカッションに出席した永山前熊本市都市建設局長からは、人口減少・高齢社会におけるまちづくりはどこも手探りの状態であり、住民の理解を得る場面のほか、一定水準の都市サービスを維持するには隣接自治体との役割分担の可能性もあることから、こうした対外的な説明や調整にもコンサルタントの能力を活用できないか。といった指摘がありました。

一方で、専門家としてコンサルタントに発注をしているにもかかわらず、地域のことを的確に理解・分析せずに業務が進められた苦い経験がある、という我々の業界への厳しい指摘もありました。

### 3. 都市計画における公共の役割とは

パネルディスカッションでは、これまで公共がほぼ全面的に担ってきたインフラの供給が民間へ移管される流れとなり、都市の様々な活動もインターネット上で充足される時代が到来した現在、都市計画における公共の役割はこのまま減っていった良いのだろうかという問題提起が中井先生からありました。

谷口先生からは、社会資本の形成はこれまでは大きく土木、法律、経済の柱で成り立ってきたが、インフラ整備の担い手が民間に移管された後も公共の責任は続くものであり、政策や具体の計画はコンサルタントとともに考え、公共は説明を果たす役割があることが指摘されました。

宇野課長からは、民間の役割が増えても公共の役割がなくなることはない。公共には、地域に関係する一人ひとりの意向をとりまとめてビジョンを出すというミッションがあることが指摘されました。



左から中井教授、谷口教授、宇野課長、永山前局長、松原会長



#### 4. 都市計画という仕事の危機感と責任感を再認識（編集部感想）

パネルディスカッションでは、「都市計画は総合行政である」というキーワードが繰り返し出されました。都市という分野を扱うからには、我々が得意としてきたハード面だけでなく、暮らし、産業、教育、福祉など、都市の中の活動も都市計画の領域ということなのです。

このことは、都市計画を、都市に関わる多様な利害や考えをもつ人たちの共感を得て、連携できるビジョンとしていく必要がある。これなくしては、都市計画の存在価値が失われてしまいかねない…という危機感を強く感じました。

協会の松原会長からは、多領域に跨がる業務にも対応していくためには、他分野のメンバーを加えたチームを編成する、あるいは外部との連携の必要性が提起されました。

現在、協会として力を入れている認定都市プランナーやe j o b事業については、1人1人のコンサルタントの専門分野や業務実績を可視化するものであり、これらがデータベースとして蓄積されると、発注者も、コンサルタントがチームを組む際にも、有効に活用されるのではないかと感じました。

また、我々が携わる都市計画という仕事は、中長期的な時間のなかで顕在化してくるものです。日常業務としては現在の課題をあるべき方向に導くための視点から取り組みがちですが、次世代にも多大なる影響を与える、という当たり前のことも強く再認識させられました。

今回のシンポジウムでは、都市計画に携わるものとして、旧来型の都市計画が消滅するかもしれないという危機感、次世代への責任感を、あらためて強く意識させられる刺激的なものでした。

##### 協会レビュー 2017年第5号（平成29年9月発行）

発行元 一般社団法人都市計画コンサルタント協会

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目二番一八号 ハイツニュー平河3F

Phone 03-3261-6058 Fax 03-3261-5082 E-mail info@toshicon.or.jp

Website <http://www.toshicon.or.jp/>

編集責任者 須永和久